

リレー記事 No.113

おうちで楽しもう

外出が制限される中、楽しく有意義な暮らし方をネットで調べてみました。なんと、エコノミーでエコロジーな提案がたくさん。一緒に楽しみませんか。

TODO(やること)リストを作る

やることリスト!

(/)
 (/)
 (/)
 (/)
 (/)
 (/)

「むだ時間すごしちゃった」と後悔しないために、おすすめは朝起きてすぐに TODO リストの作成だそうです。やるべきことが明確になり、行動に移せるとか。さっそく、やってみます。

リモート飲み会 (だべりんぐ)

無料アプリ (一部有料あり)

- たくのむ
- LINE
- Zoom
- Skype
- Messenger
- Google Meet



※使い方は調べてください。

パソコンやスマホのビデオチャットアプリ。おうち時間が増えると、1日の会話時間も減って寂しい。これならいつでも会えますね。

Pokekara

無料アプリ

スマホの歌詞付きカラオケ採点アプリ。

自宅で歌ってストレス発散!



その他

せっかくの機会。趣味を極めましょう。

- おうちフィットネス
- 普段手を付けない場所の掃除
- 冷蔵庫整理の料理
- 買って読まなかった読書
- 絵を描く (パソコン絵もあり)
- 手芸 などなど

家キャンプ

家の中でテントを張る「家キャンプ」。秘密基地のようでわくわくするそうです。



寝袋で寝るとテンションも上がること間違いなし。その人なりの工夫で楽しみ方は無限大!らしいです。もちろん、お庭、ベランダでもOK。

私は子育てがほぼ終了し、親のことが気になる年齢になりました。この機会に自分と向き合う「自分時間」を作り、これからのこと考えたいと思います。

《ひらっち》

エコロの森 再生・展示棟 報告

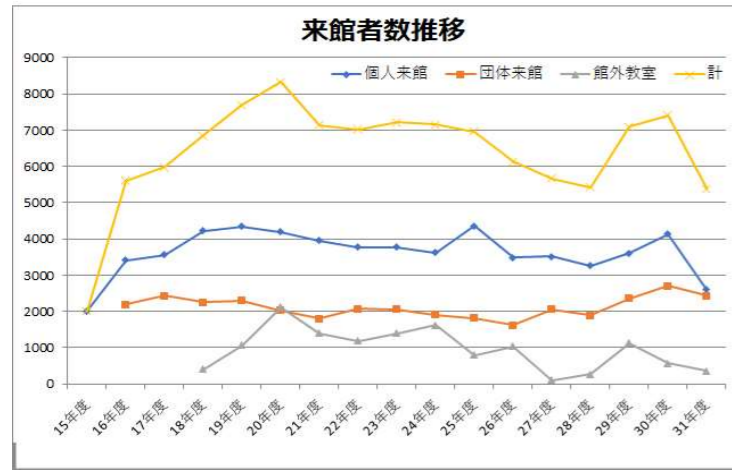
○本年度2月下旬より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下のとおり、教室等開催が中止されました。

- 令和2年2月21日 この日実施を最後にエコロ環境教室 中止決定
- 令和2年2月21日 春まつり 中止決定
- 令和2年2月25日 春休み教室 中止決定
- 令和2年2月26日 エコエコクッキング 中止



○フリーマーケットにおいて、手作りマスクのニーズが高まったため、職員が製作を行い市民の非常事態におけるニーズに応えました。

○長らく実施された再生自転車販売がないイベントの開催には集客への不安がありましたが、思った以上に来館者があり市民の興味の高さとイベントの力を感じました。



○利用登録者への連絡方法が、E-mailからLINEへと移行の準備を進めることができました。

○市民参加の形として、ボランティアだけでなくフリーマーケット出店やイベント参加という形が定着しつつあります。

○自転車再生工房を多目的室として利用することができました。

《S》

ぐりんぐりん古賀 事務局 報告



設立当初よりぐりんぐりん古賀の会員として活動していましたが、平成31年度から事務局をうけました。立ち上げから当面の間、古賀市が事務局を担っていたのですが、これで団体として独り立ちをしたこととなります。



▲舞小ビオトープ保全中

事務局の主な仕事は、スムーズな活動のための会員への連絡、調整、準備です。会員さんは、熟年の方が多いのですが、なかなかどうして現役バリバリです。作業も早いし、写真加工やネット作業もお手のものです。私は、連絡ミスや誤解がないよう、気を配って1年終えた気がします。まだまだうっかりもあります、減らすくふうを考えてやっていきます。

《ひらっち》

つながりひろば 運営 報告

つながりひろばの運営に携わるにあたり、これまで培ってきた啓発活動や活動支援の手法を頼りに、登録団体だけに限らず、個人来所者や市民・生徒等を対象に、できる限り多くの働きかけを心がけました。



▲ミーティングスペース利用の会員さん

つながりひろばは、市民活動支援のための施設ですから、まずは利用者の信頼を得ないことにはうまくいきません。それに特効薬はなく、誠実できめ細かい利用者に沿う対応が必要であると考えました。そこでまず登録団体を対象に聞き取り調査を行い、その上でスタッフごとに登録団体の担当を定めました。スタッフ間の情報の共有、スタンスの統一、能力の向上は欠かせません。それを埋めるのは話し合いです。スタッフ会議は幾度となく回数を重ねました。

そのような努力や姿勢が利用者に伝わったのか、相談件数は昨年度と比較して大幅に増えました。加えて、広報紙の刷新や多様な講座等、またLINEサービスの利用やボランティアと団体のマッチングなどにより、一般市民や学生・生徒等、登録団体に限らずアプローチできた年となりました。

《S》

つながりひろばでは、LINE登録を勧めています。ボランティア募集情報などを月に1、2度連絡。QRコードを読み取り登録をお願いします。詳しくは、お問合せ下さい。
☎092-942-1352(火曜～土曜9:00～17:00)



認定を返上しました

5年間認定NPO法人として活動してきましたが、令和2年3月末をもって認定を返上しました。平成31年度より受託事業を増やしたことにより提出書類の作成や寄付集めに労力を割けなくなったことが、大きな理由になります。

認定を返上したことにより、賛助いただいた方への「所得税の寄付控除」がなくなります。ご了承をお願いします。



ほらんず (毎月のボランティア清掃は、HPのスケジュールに掲載)

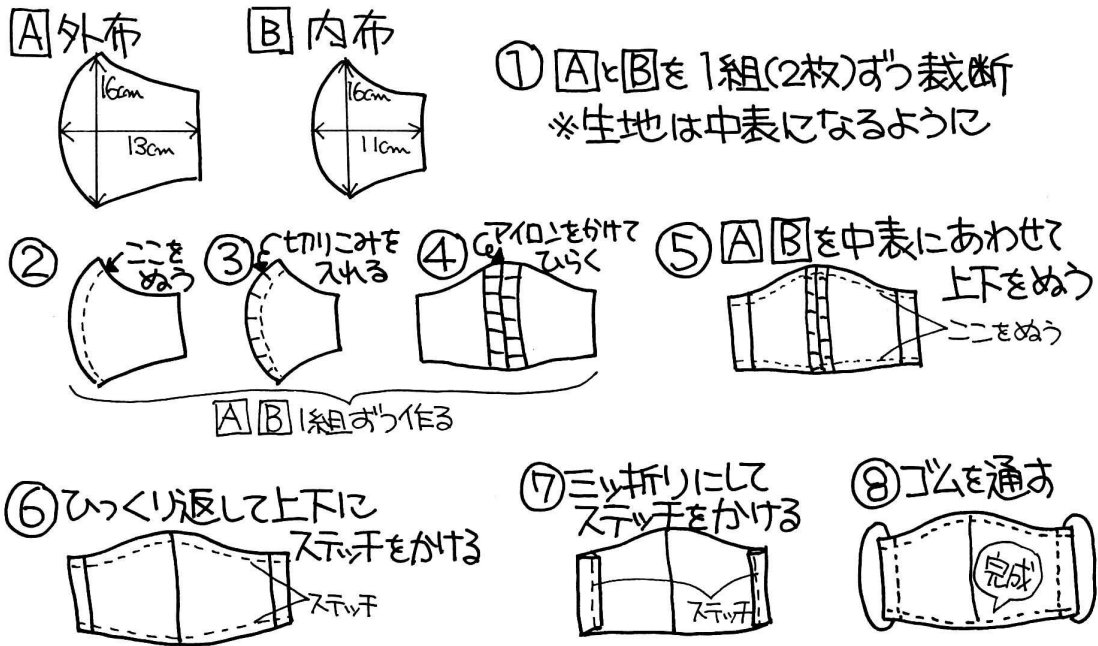
しばらく中止します



作ってみよう！布マスク

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクは必需品になりました。お家にいる時間が長い今だからこそ、手作りのものを作ってみませんか？自分で作った物は、愛着がわき、使うことが楽しくなってきます。

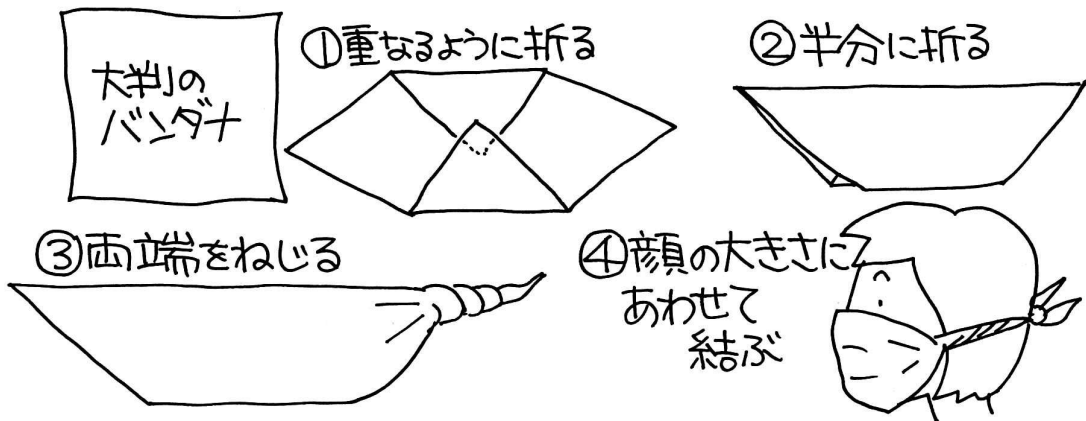
立体マスクの作り方(ミシンでも手縫いでもOK)



マスクゴムがなかなか手に入らない。
そんな時には、ストッキングやTシャツを
切って、ゴムにするといいですよ！



裁縫が苦手という方はこちら。縫わずに作れます。



インターネットなどでも様々なマスクの作り方が上がっています。自分の安全を守る、そして繰り返し使える布マスクを使用することで環境も守る、今できることをやっつけていこうと思います。

スタッフインタビュー

濱 由希子

エコロの森を切り盛りする濱さんがエコけんに来て、10年になります。エコけんの「エコロの森の職員募集」の折り込みチラシを見て応募してきた一人です。3人男子の子育て中のママにとってエコけんのゆるい勤務（週2日3～4時間）は魅力的だったそうです。

若い頃、幼稚園の先生をしていたとのことで人前で話すことは、お得意と思いきや、詳しくないごみ減らしのコツを話す「エコロ環境教室」を任されることにはかなりの動揺があったとか。当初、濱さんはガチガチに緊張し、正確に話すことに懸命で、聞いている人の顔を見て「伝える」ことまで気が回っていなかったそうです。そんな自分のふがいなさに、泣いてしまうことも。なかなかの負けず嫌いですね。

濱さんが現在「エコロ環境教室の主演」になったきっかけは、代表の清水から言われた言葉だったそうです。「こわい顔して話してるよ。濱さんが楽しくなければ相手も楽しくないよ。」目からウロコ。

今日も濱さんは、楽しそうにみんなに語り掛けています。

《ひらっち》

《未来を創る私の思い》

まず一步 笑顔で踏み出そう！



スタッフインタビュー

羽田野 真里子

エコロの森の展示担当。千手観音の手を持っているのでは？と思うくらい作業をテキパキとこなすパワフルウーマン。



Q. 展示を担当して思うこと

A. 展示＝美術と思っていたのでプレッシャーでした。でも最近、素材を見つけ自分の思いを形にするこの仕事が、だんだん面白くなってきました。もしかして、隠れていた才能が開花した！？

Q. かえっこやエコ環に関わって難しいと感じたこと

A. 決まったことを言うだけではない、自分の思いも一緒に伝えること。環境は日々変わっていくので、情報収集などもっと勉強が必要。

私とは違う角度から物事をとらえる羽田野さん。（二人でかなり熱く意見を交わすことも）たくさんの人と関わり、つながりを大切にしてきたからこそ生まれてくるものだと感じました。

《濱》

《未来を創る私の思い》

今を大切に!! 人を大切に!!



エコけんのPOPの女王。彼女の手から生み出されるイラストは、ご本人同様、とてもあたたかな雰囲気のものばかりです。

Q. エコけんに関わったきっかけは

A. 友だちに誘われて参加したかえっこ。何度も参加しているうちに、スタッフと顔見知りになり、POP描きのお手伝いをするようになりました。息子が1年生の時に初めてエコロの森に遊びに来たので、もう15年ぐらいになるかな。

Q. 仕事をしていてよかったことは

A. 以前は筆でPOPを描いていましたが、ここには、ポスカ、マジックがたくさんあり、それらを使って描くようになりました。自分の中で新しい描き方を習得できました。

家では、ごみ減のために分別はもちろんのこと、庭に生ごみを直埋めしているそうです。「穴を掘っていると時々、近所の猫と目が合い、お互いフリーズしたことも！」と笑顔で話してくれました。

《濱》

《未来を創る私の思い》

1つでも自分に出来ることを続ける。継続は力なり!!

去年、役目を終えた「makimaki hand maid」(以下makimaki)の代表でした。

2011年、長女の1年生入学をきっかけに、花鶴小フェスタで出店し「手作り体験を子どもたちにさせたい」とmakimakiを始めました。当初ひとりでやろうと思ったものの、やり始めたら無理とわかり、近所のママ友に相談したところ10人くらいが手伝いしてくれたとか。毎月1回お店の準備をし、フェスタ当日の利益は、20%学校に渡し、残りはみんなでランチというシステムだったそうです。楽しく活動していたmakimakiも、子どもが大きくなりメンバーが働き始めると継続もむずかしくなりました。そんな中でも準備に手伝える人を紹介してくれたり、人との出会いは、活動を通して得た大切なものでした。

エコけんとの出会いは「廃油石鹼教室」だそうです。その後、「エコロの森MY企画」に応募し、その年の大賞に選ばれ大喜び。

現在は、つながりひろばで活躍中です。「イケイケどんどん」のタイプですが、それは大学生時代の経験が大きいとか。友人とのニュージーランド旅行で「橋の上からバンジージャンプ」に挑戦。異国の地でもものすごく怖くて死を覚悟したそうです。その時の思いをするなら、なんにでも挑戦できる、と思ってしまうそうです。

《ひらっち》

《未来を創る私の思い》



やらずに後悔するより やって後悔す